（C）日刊スポーツ新聞社

2014.7.23→2020.7.24

次回11月4日(水) 追加競技特集 第1回はサーフィン

◆五輪メダリスト◆◆竹本圭男（たけもと・まさお）＝58年メルボルン大会体操男子団体銀、選手団の主将を務めた79歳の「体操の神様」は今年、ご自宅に滞在するチームを五輪のメダル獲得に導いた。個人でもリオ五輪・平行棒、鉄棒の2種目で銅メダルを獲得した「レイデッカー・佐々木雄美

寺川綾（30）

12年ロンドン五輪予100メ背泳ぎ銅メダリスト

2020年東京五輪へ 300人リレーコラム 86人目 題字は北島康介自筆

人生で大切なこと教えてくれた

オリンピックは自分にとって特別な存在です。良いことも、悪いことも経験し、生き方を学ぶことができました。大学2年でアテネ五輪に出場、決勝に残ればいいとの気持ちで200メ背泳ぎでは8位入賞。重圧にのまれ、何でこんなに手が震えるんだろうと思うくらい、手の震えが止まらなかった記憶があります。08北京五輪は4月の選考会で2位内に入れず、出場権を逃しました。社会人2年目の23歳、当時の女子選手の常識から引退が既定路線。3位でのプレゼンターに「長い間本当にお疲れさまでした」と言われたのです。勝手に現役生活を終わらされたと、悔しさが込み上げてきました。このままでは終われない。

ロンドン五輪・100メ背泳ぎ決勝前の招集所の風景が忘れられません。金メダルのライバルへの遠い、同じ立場のリンは直前に自由形のレースに出、自分のドリンクを持って行ってくれました。

現役続行を決意しました。

08年末、五輪メダルを取るため、平井伯昌コーチの元を訪ねました。最初は断られましたが、何度も押し掛けて、合宿への参加を認めてもらったのです。晩ごはんでは、コーチが定めた目標に誘導されてしまったが、平井コーチとは、一緒に頑張るという感覚、どこか浮ついた雰囲気はなかった。ここまでは終わらせない、能動的な姿勢に変化したのです。

ロンドン五輪・100メ背泳ぎ決勝前の招集所の風景が忘れられません。金メダルのライバルへの遠い、同じ立場のリンは直前に自由形のレースに出、自分のドリンクを持って行ってくれました。

次はどんな夢を

最後には太陽が沈み、一瞬光が消え、そして一瞬火は太陽へ帰った。人類は4年ごとに夢を見るこの創られた平和を夢で終わらせていいのだろうか！―映画「東京オリンピック」はこう締めくくっている。

2020年夏、2度目の東京五輪に「体、我々はどんな夢を見ればよいのだろうか。【寺井秀一】」

映画「東京オリンピック」に熱狂した当時へタイムスリップ

昭和39年の東京にようこそ

NIKKAN SPORTS 東京オリンピック特集

毎週水曜日連載 NIKKAN SPORTS SPECIAL

今回の「東京五輪メモリアル」は開催年、1964年（昭39）にタイムスリップします。東海道新幹線が開通し、巨人王貞治選手は日本記録「当時の55号ホームラン」を記録、「平凡パンチ」が創刊、街にはVANに代表されるアイビー革命が起こり、銀座は「みゆき族」が闊歩（かっぽ）しました。人々は「明日があるさ」（坂本九）と歌い、東京五輪金メダル、バレーボール全日本女子チーム大松博文監督の「俺についてこい」は流行語になりました。奇跡的な戦後復興、飛躍的な経済発展！そんな上げ潮ムードの中、東京五輪は挙行されました。

64年メモリアル④

クーラー自動車カラーテレビ「新・三種の神器」

64年4月、銀座4丁目「和光」のショーウインドーにもオリンピックムードが漂う

国民的英雄 力道山亡きあと「巨人 大鵬 卵焼き」

64年5月、東京五輪が近づき、万国旗の注文が増え大忙しの旗問屋

64年6月、モノレールに試乗しご満悦のフランス人俳優アラン・ドロン

64年5月、銀座の街に流られた聖火台と五輪マークのネオン

数寄屋橋は撤去され日本橋は高速道路下に

64年5月、9月開業に向け昭和島付近を試運転する東京モノレール

63年10月、首都高速工事が急ピッチの江戸橋インター、手前が呉服橋

64年7月、「東京五輪音頭」100万枚記念パーティーで新人女性歌手をバックコーラスに歌う三波春夫

東京五輪開会式で披露しようとデモンストレーションをするブルーインパルス

「国民的英雄」力道山亡きあと「巨人 大鵬 卵焼き」

球界の判定は「アウトォ！」「ノータッチ！」エキサイトした長嶋茂雄が突き飛ばした。打席の5番広岡朝男が「ニュータッチ！」とエキサイトした長嶋茂雄を突き飛ばした。「なぜ、外野行自由化」。そしてクレーマーや自動車、カラーテレビは東京五輪を契機に「新・三種の神器」としてのし上がる。白黒からカラーへ、日本はきらびやかな「原色」の時代へと突入してゆくのである。

次はどんな夢を

最後には太陽が沈み、一瞬光が消え、そして「聖火は太陽へ帰った。人類は4年ごとに夢を見るこの創られた平和を夢で終わらせていいのだろうか！―映画「東京オリンピック」はこう締めくくっている。

2020年夏、2度目の東京五輪に「体、我々はどんな夢を見ればよいのだろうか。【寺井秀一】」

砂糖（さとう）舞い上がるホームと、富沢宏哉球界の判定は「アウトォ！」「ノータッチ！」エキサイトした長嶋茂雄が突き飛ばした。打席の5番広岡朝男が「ニュータッチ！」とエキサイトした長嶋茂雄を突き飛ばした。「なぜ、外野行自由化」。そしてクレーマーや自動車、カラーテレビは東京五輪を契機に「新・三種の神器」としてのし上がる。白黒からカラーへ、日本はきらびやかな「原色」の時代へと突入してゆくのである。

ON砲が全盛期

戦後の国民的英雄・力道山は東京五輪の前年、1963年（昭38）暮れ、東京・赤坂のサイトウクラブ「ニューラテンクォーター」で暴力団組員にナイフで刺され、直後の12月15日、満39歳で早々と“退場”してしまったが、「巨人・大鵬・卵焼き」のキャッチフレーズは「昭和元禄」を象徴した。

優勝32回、6連覇2回、全勝優勝8回、45連勝―大鵬の初優勝は60年（昭35）の11月場所、引退は1年5月場所である。プロ野球・巨人軍は50年代からの強豪であったが、「青バット」大下弘、赤バット川上哲治の「時代はすでに遠の昔」。長嶋茂雄、王貞治のON砲が全盛を迎え、「赤バット」川上哲治は監督となり、V9を達成する。

64年3月20日の開幕戦（東京五輪に備え開幕が早められた）、国鉄（現ヤクルト）の先発、金田正一（のち後楽園、現東京ドーム）場外にあったローラースケート場前、喫茶店の屋根直撃の150メートル級特大ホームランを放ったのは巨人王貞治であった。8月6日の国鉄戦2回、やはり好投する金田の4球目を見事に猛然とホームスチールを敢行したのは長嶋茂雄であった。

「原色」の時代へ

53年（昭28）にテレビ放送が始まり、白黒「三種の神器」と呼ばれ、59年の「皇太子明仁親王成婚パレード」を機に普及した。そしてクーラーや自動車、カラーテレビは東京五輪を契機に「新・三種の神器」としてのし上がる。白黒からカラーへ、日本はきらびやかな「原色」の時代へと突入してゆくのである。

衝撃の課外授業

「オリンピックは人類の持っている夢のあらわれであるという子供に続いて自然の大脈が昇る。聖火が各地の原風景をなぞり、聖火台に巨大な火が立ちあがる。弧状に広がる聖火の光の波の、盛り上がる人間の躍動する。スローモーション、競技のスピード、筋肉の躍動する。スローモーション、競技のスピード、筋肉の躍動する。スローモーション、競技のスピード、筋肉